明日への扉 No.10

聞いてください この澄んだ優しい音色を

小城 遥香さん

平成２年鹿屋市生まれ。鹿屋中央高校でハープを始め、平成20年４月鹿児島国際大学短期大学部音楽科入学。卒業後は県内外の演奏会に多数出演し、現在、鹿児島市の松田ピアノ友社、県立松陽高校でハープ非常勤講師を勤める。(25歳)

生徒への指導や演奏会の練習など多忙な毎日を送っているが、各地の演奏会にも積極的に参加。11月3日に鹿児島市で開催される国民文化祭「オーケストラの祭典」と「吹奏楽の祭典」にも出演予定。

３歳から電子オルガンやピアノを習っていたこともあり、小学校は器楽部、中学・高校は吹奏楽部に所属し、パーカッションを担当。青春時代はずっとアンサンブルの世界へとのめり込んでいました。

高校の吹奏楽部へ入部してすぐ、担当する楽器とコンクールのメンバーを決めることとなり、顧問の先生が「今年からハープを取り入れようと思う。パーカッションの１年生の中でピアノの楽譜が読める者はいるか?」と部員に尋ねたのです。私はテレビで流れるオーケストラの映像などでしか見たことが無かったハープに実は以前から憧れていたので、真っ先に手を挙げた結果、幸いにもハープを演奏できるチャンスを得ることになりました。まさか自分が演奏できるなんて夢にも思っていませんでした。

初めてハープを直接肩に置き、指でポーンと一音弾いてみたとき、自分の胸に心地良く響く感覚がとても気に入って大変感動し、「この楽器との出会いは運命だ」と思いました。

高校卒業後もハープを続けたいと思い、高校でご指導くださった先生が勤務されていた鹿児島国際大学短期大学部音楽科に入学し、ハープを専攻しました。卒業後は銀行へ就職しましたが、ハープへの思いが断ち切れず、退職して県内でも数少ないハーピストへの道へ歩き出しました。今は拠点を鹿児島市に移していますが、もちろん地元鹿屋での演奏活動、レッスンも続けています。

ハープという楽器は、その姿形や優雅さなどから、女性に弾かれることが多い楽器です。しかし実はドレスの下の足元にはペダルが７本も付いており、演奏中にそのペダルで音変えを何度も行います。両手両足を使い、体力的にも男性向きと言われているほど、とてもハードな楽器です。その時の体調や感覚によっても音色に影響があるため、体調管理には気を付けています。

ハープは心臓に近い位置で響き、一度出した音は減衰します。その儚さや、水・風・光など自然を表現できるこの楽器は、古来から人間が好む音色なのではないかと私は考えています。初めてハープを聴く人も「何か懐かしい感じがする」とか「心が落ち着く」などと感じる人が多いようです。そういうところもハープの魅力だと思っています。今後もより多くの人にこのハープという楽器の魅力を伝えていきたいです。